令和7年度北九州市交通安全対策会議 議事録

■日 時:令和7年8月19日(火)15:00~16:00

■場 所:北九州市役所本庁舎15階15C会議室

■出席委員:11名(敬称略)

会長:南野(会長代理)

委員:牧野(上田委員代理)、都原(浦田委員代理)、立野(桐原委員代理)、
浅井、増田、中村、小名川、栗丸、山下、稲富

■内 容:

1 開 会

2 挨拶

総務市民局安全・安心担当理事

3 議 題

令和7年度北九州市交通安全実施計画(案)について

審 議

審議の内容は以下、審議記録のとおり。委員の意見を踏まえ、令和7年度北九州市交通安全実施計画(案)について全会了承。

4 閉 会

審議記録(要旨)

(事務局)

別紙資料1により令和7年度北九州市交通安全実施計画(案)について説明

(事務局)

自転車ヘルメットの着用率について、意見を賜りたい。着用率は上がっておらず、県立高校の通学時における着用義務化など、様々な周知や対策を行っているが、普段の生活では着用割合が高くないと認識している。

どのようにすれば着用率が向上するか、交通公園で培った知見を基に意見を頂けないか。

(委員)

交通公園では、自転車利用者向けにヘルメットの無料貸し出しを実施しており、主に子供が対象である。園内では半数以上の子供が自主的にヘルメットを着用している。

しかし、一般道での着用は難しい面がある。そもそもヘルメットを所持していない子供も多く、啓発は重要であると考え。

何か割引制度や、特定の年齢層の子供への無料配布といった市民サービスがあれば、親が買い与えやすくなり、それが着用普及のきっかけとなる可能性があると考え。交通公園での無料貸し出しは好評だが、有料化すれば利用率は低下するだろう。無料配布のような制度が普及につながると考える。

(事務局)

交通公園において、親子連れの場合、保護者のヘルメット着用率はどうか。

(委員)

保護者の着用率は極めて低い。保護者は子供に着用させる一方で、自身には抵抗があるものと推察される。

(事務局)

親がヘルメットを着用していない状況では、子供には言いづらいと思われる。子供向けの広報活動などは手厚く行っているが、最終的に親が着用しないと子供も着用しないという課題がある。

この点の周知に関する方策について、子供への周知は学校に協力いただき実施しやすいが、一般の方への周知は市政だよりやホームページが主な手段であり、それ以上の有効なツールがないのが実情である。いい方法があれば、ご教示いただきたい。

(委員)

坂道における若年層の自転車速度が速いと感じる。自身であれば回避可能であるが、小さな子供や高齢者にとっては危険である。自転車は車道を走ることはなっているがそれも難しいとも思われ、何か良い啓発策はあるか。

(事務局)

基本的な自転車の通行方法は、車道の左側通行が原則である。一方で、標識がある場所や年齢によっては歩道通行も認められるが、その場合は歩行者に危険が及ばない速度で通行する但し書きがある。

来年4月1日からは「青切符」制度が導入され、16歳以上は通行区分違反で摘発対象となる。ただし、警察庁が行ったパブリックコメントではそれは難しいという意見もあり、安全な速度で通行している場合は取り締まりされることはないのではないかと考えている。しかし、歩行者が危険に晒されるような運転であれば、取り締まりの可能性はあると認識している。

(委員)

自転車の取り締まりの関係は具体的には国からまだ示されていないが、今言われた方向で今後調整が進むものと考えます。

自転車は身近な乗り物だが、危険性も高い。警察では各警察署単位で、学校等での交通安全教育において、過去の危険事例や賠償事例、事故映像などを用いて、危険性を理解させる教育を行っており、粘り強く継続していくしかないと考えている。特効薬はないため、現状の取り組みを続けていきたいと考えている。

(事務局)

また、スポット的に危ないような箇所があれば、車止めを並べて、幅を少し狭めることで物理的にスピードを落とすような対策をしているようなところもある。勝山公園の下り坂などにも同様の対策が施されている。

スポット的な対策は可能だが、全体的な話となるとやはり周知を粘り強くやっていくということになる。

(委員)

学生の自転車利用、特に通学においては、時間的な制約からスピードを出す傾向が見られる。歩行者や学生の安全、そして車との関係を考えると、非常に難しい課題である。自転車レーンを全部設けられたら良いが、予算の関係もあり難しいと思うし難しい課題。

(事務局)

来年4月1日の制度導入にあわせ、周知徹底できるところを我々も進めていく。

(委員)

折尾地区では高校が密集しており、自転車が2列になったりしている。ヘルメット着用は向上しているが、他のマナー、例えば遅刻を避けるためにとは思うが、歩行者信号が青になって歩き出すと、前をぱっと横切られたりする。高校への啓発などはあるか。

(事務局)

高校への啓発については、成人と比べるとまだ手段があると考えます。我々も高校や小中学校を含め

て啓発を進めている。ご指摘のようなケースは、自身も実際に目にすることがある。

(委員)

自転車通学は中学生にも一部認められている学校があるが、高校生は人数が多く、特に問題が大きい。

(事務局)

通学する高校生の本人たちも時間的な要因があると思われる。これまでも啓発はしてきているが、より効果的にアピールできる方策を今後も考えていきたい。

(事務局)

その他、この機会なので、形式にこだわらず、交通安全全般について意見を伺いたい。他にないか。

(事務局)

他にご意見等なければ、いただいたご意見を踏まえて若干の修正はあるかもしれないが、この計画案に沿って事業実施させていただきたい。

以上で令和7年度北九州市交通安全対策会議を閉会する。